

洛北高校 SSH 研究室体験研修

『細胞が作り出す樹木の特徴～生き物としての樹、材料としての木～』の実施

平成30年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の活動として、7～8月の3日間（7/30、8/3、8/6）、京都府立洛北高等学校の生徒2名が生物材料物性学研究室を訪問し、『細胞が作り出す樹木の特徴～生き物としての樹、材料としての木～』をテーマに研究室体験研修を行いました。

昨年に引き続きSSHの一環として、研究をどのように行っていくのか、実際に体験してもらいました。1日目は、講義やディスカッションに加えて、鷹峯演習林での竹の伐採や森林を見学してもらうとともに、樹木を用いた家具を作る工房を見学しました。2日目は、木材を使った曲げ試験・衝撃破壊試験などの実験を行い、破壊するスピードによって木材の破壊の仕方がどのように異なるのか、木材の構造や特性から考えました。1日目で伐採した竹も同じように試験を行い、竹と木材の違いについても観察しました。3日目は、午前中に大学に隣接した植物園を訪問し、日常ではなかなか触れることのできない樹種を観察し、それぞれの樹種の生き方について学びました。午後は、昨日の実験データをもとに考察を行い、発表をしました。最後には3日間を通して感じたことなどについてそれぞれ発表し、研修体験を終えました。



鷹峯演習での竹の伐採（1日目）



研究室での曲げ試験（2日目）



研究室での衝撃破壊試験（2日目）



植物園での見学（3日目）



研究室での実験の考察（3日目）



ディスカッションと発表（3日目）

